

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年4月号



【平成 20 年度第 5 期総会開催される】

平成 20 年 4 月 25 日（金）18：30～20：00 国立オリンピック記念青少年総合センターの会議室にて平成 20 年度第 5 期総会が開催されました。出席者は委任状を含めて正会員 27 名中 25 名でした。議事内容は総会資料内容に沿って、平成 19 年度事業報告、決算報告、監査報告、平成 20 年度事業計画、予算計画と進められ、全て満場一致で承認されました。また、本総会は改選期であり、役員の変更がありました。役員として、辻田代表理事、宇佐副代表理事、永松理事、舌間理事、小田理事、出崎理事、小川監事が選任されました。また、新たに顧問として中内氏、内山氏、斎藤氏、中根氏が推薦され承認されました。あわせて、平成 20 年度の主な行事予定も原案通り承認されました。なお、ご欠席の方には当日の総会資料は別途郵送致しますのでご覧ください。

【バイオマス部会研修会開催の報告(小田部会長)】

去る 4 月 19 日バイオマス部会研修会を開催いたしました。場所は宇佐氏宅で講師に清水夏樹博士(バイオマスアドバイザー)を迎え、約 3 時間“バイオマス資源循環利用診断”についてお話を聞きました。主にパソコンを使った説明でしたが、バイオマスタウン構想を立てる際に、それを客観的に評価するという初めての試みとも言える貴重なものでした。バイオマス部会として今後の活動に参考になり、バイオマスタウンを目指す自治体等に大いにアピールできるものと期待するものです。



研修会風景：中央が清水博士

【吉川イブニング・ロータリークラブで辻田代表が講演】

平成 20 年 4 月 9 日に吉川イブニング・ロータリークラブで辻田代表が「事業継続計画（BCP）」に関する講演を行ないました。ロータリークラブはライオンズクラブと並んで世界的な規模の社会奉仕団体で、1905 年アメリカのシカゴで誕生した組織です。我が国では 1920 年日本初のロータリークラブが当時の三井銀行の重役であった米山梅吉氏等により作られ、現在では日本は世界第 2 位のロータリー国となりクラブ数 2,329、会員数 101,670 人の大組織となっています。

当日は点鐘そしてロータリークラブの歌の斉唱そして邨田会長の挨拶と格調高くはじまりました。辻田代表の講演は卓話のゲストとしてお招きされたものです。当日は吉川市の名士たる面々に当 NPO の活動紹介とともに事業継続計画（BCP）の概要についてお話し大変に興味深く聞いて頂けました。このような機会が実現したのも 2 月の吉川 NPO フォーラムにて当 NPO が主催して行ないましたセミナーに参加していたロータリークラブの理事方からのお誘いがあった為です。着実に当 NPO の活動が地域に根ざした活動として幅広く広がって行くことが期待されます。

【会員情報】横川義昭氏が平成 20 年 4 月からシニアアドバイザーから正会員に登録されました。

野田実氏、畠山修氏の 2 名は平成 19 年度末で退会しました。現在会員数は正会員 27 名、特別会員 2 名、シニア・アドバイザー 3 名です。

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年5月号



[東埼玉テクノポリス協同組合主催の BCP 普及事業を支援]

2月に埼玉県吉川市にて開催しました「BCPセミナー」に参加頂きました東埼玉テクノポリス協同組合の国光専務理事からぜひとも東埼玉テクノポリス協同組合において BCP を普及させたいので協力して欲しい旨の要請を受けました。早速、1年間を掛けての BCP 作成指導講座のカリキュラムを作成し提案しました。主なカリキュラムは BCP に関する4回の集合教育と3回の個別指導からなっています。東埼玉テクノポリス協同組合ではこの事業提案を5月30日の総会にて BCP の取り組みが承認されました。また、本総会で辻田代表が BCP 作成指導講座の講師として紹介されると共に BCP に関しての講演をしました。すでに、5社の企業が本講座に参加を希望しており、最終的には8社の企業が参加する見込みです。当 NPO としても具体的な企業の事業継続計画（BCP）の作成をお手伝いするのは初めてであり組織を挙げて取り組んで行きたいと考えています。

[初めてのオープンセミナーの企画]

地域再生、まちづくりにおいて団塊の世代をはじめとした中高年齢者（シニア世代）に対する期待がとて大きくなっています。これから地域に戻ってくるシニア世代の方々の、豊富な経験と知識をいかに地域活動に役立てていくかが重要になってきています。ずばり「リタイア後の地域デビュー」をテーマに当 NPO として初めてのオープンセミナーを中央大学学会のご後援を頂き、8月2日(土)14時から中央大学駿河台記念館にて開催します。講師は日本でのコミュニティビジネスの提唱者として名高い細内信孝先生です。セミナーではこれまで企業戦士であった団塊の世代も定年を迎え、地域に帰ってどのように地域デビューすべきか。また、定年後のセカンドライフを充実させる地域活動や社会活動の心得を伝授して頂きます。また、これまでの人脈・経験を生かしたコミュニティビジネス起業のお話しもして頂きます。オープンセミナーは何方でもテーマに興味のある方であれば参加できます（会費 3000 円）。会員の皆様にはあらためましてご案内いたしますが、多くの皆様にお声をお掛け頂き初めてのオープンセミナーを成功させましょう。

[高橋肇事務局長の就任挨拶]

数年前、辻田代表から NPO を立ちあげたとのご案内をいただき、ごく軽い気持ちで「何かやることあれば声かけて」とお答えしました。

どうも、辻田代表をはじめ技術屋さんの文章は、専門用語・業界略語が駆使され、内容も詳細が尽くされている半面全体像がみえにくい、市民とともに社会貢献を標榜しているわりにはわかりづらい、と感じておりました。シニアエンジニアの錚々たるメンバーによる専門家集団にあつて、一介の事務屋のわたしとしては、専門的な文書を素人にわかりやすい表現に直すようなことでもお手伝いできればと思ったのです。

このたび、文章添削係から事務局長へというおはなしで、いきなり明るいところに出されて目がくらくらして戸惑っていますが、CSN が、会員諸氏の楽しい活動の場となり、益々世の中のお役に立つ組織となるよう微力をつくします。よろしく願い申し上げます。

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年6月号



〔第4回 CSN サロン報告〕

第4回サロンを6月9日（月）に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催しました。午後3時から5時の時間帯であったにもかかわらず、今回も多数の参加を頂きました。講演テーマは「コミュニティビジネスの紹介」と題して、当NPOの辻田代表に講師をお願いしました。最新のソーシャルビジネスの実態やコミュニティビジネスの実態も交え興味深い内容でした。今回はもう1つ「浮体式橋梁の提案」と題して、会員の横川都市研究所の横川氏をお願いしました。オーストラリアから北海道、ロシア、アラスカ、シアトルを結ぶ環太平洋リニアモーターの壮大な構想のお話や、土木と建築の融合、現状の技術士や建築士などの資格制度など、広範囲に亘るお話しは本当に度肝を抜かれる思いでした。サロン終了後は恒例となりました懇親会を行い、参加者一同楽しいひと時を過ごしました。また、今回は一般の方も3名参加され、我々NPOメンバーとも交流を深めました。

〔早稲田大学依田教授訪問〕

6月9日NHK総合テレビで「橋は大丈夫か。しのびよる劣化」が放映され大きな反響を呼びました。橋梁の劣化対策は、いまや我が国において深刻な状態になっています。5月28日、（水）当NPOの橋梁保全研究会（座長：平野教授、世話役：伊藤氏）のメンバー辻田代表、小田氏、伊藤氏の3名で、早稲田大学の社会環境工学科依田照彦教授を訪問してきました。依田教授は日本を代表する橋梁に関する研究者であり、昨年米国で落橋したミネアポリス橋の調査団として調査に出かけられています。依田先生と平野先生は大変に懇意であり、平野先生のご紹介で本日の訪問が実現したものです。

市町村では橋梁の定期点検すら83%の自治体で実施していないのが実態であり、それらの理由としては65%が技術力不足、62%が財政的な問題、50%が人材不足となっています。そこで、当研究会では市町村の橋梁保全をNPOとしてどのように取り組んでいくか、をテーマにしている旨をご説明しました。依田先生には大変に興味深くお聞き頂き、市町村橋梁に対してはご自分も少し調査してみますとお約束頂き、また今後必要があればご指導を頂けることとなりました。

〔農地の土壌診断事業の企画〕

バイオマスの利活用による環境保全型農業への転換が求められています。具体的には「たい肥」の利用です。利用者側からの視点であるたい肥の「質」について「これ」だと言えるものがないのが現状です。それは、たい肥に求める「質」が各農家（稲作・果樹・露地野菜等々）によって違って来るからです。土壌診断とは作物が必要とする土壌養分の多少と養分相互間のバランスが適当であるか、ないかを診断するものです。作物の養分が極端に不足すると、欠乏症状が現れ、症状が出てからでは手遅れになるので、定期的に科学的手法で養分分析や量の多少を知り補給することが大切となります。現在の農業では作物の安定栽培と高品質化（安全で安心）が求められており、このような土壌診断～施肥設計が重要となっております。当NPOバイオマス部会では、バイオマスの利活用にあたり、家畜排せつ物の利用の1つとして「たい肥化」の普及にあたり「たい肥の有効性＝環境保全型農業」を如何に農家の方々に理解してもらい、安心して使っていただくかを考えているところです。その上からも科学的にその有用性を示し、実際に作物の増収や品質の確保を実感していただくために、この土壌診断を普及させたいと考え現在この「土壌診断事業」の企画に宇佐副代表、小田氏、亀山氏を中心に取り組んでおりますが実際の取り組みにはより多くの方の協力が必要と考えてます。

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年7月号

[辻田代表、吉川市に協働事業を提案]

地域を支える原動力は「ひと」であり、「ひと」と「ひと」のつながりです。辻田代表は、吉川市の第4次総合振興計画に盛り込まれている「よしかわ ひとつづくり・まちづくり」の具現策として、『地域アイデンティティ創造事業』を提案しました。この提案は、『コミュニティ活性化人材育成事業』、『吉川アイデンティティ創造事業』、『吉川 NPO ポータルサイト構築事業』の3つのサブコア事業から成りたっています。この度、この提案が採用され今後4年間、辻田代表が運営委員として参加している中間支援組織「NPO ネットよしかわ」と吉川市の協働事業として実施して行く事となりました。

[CS ネット受託:東埼玉テクノポリス協同組合のBCP 作成指導講座スタート]

当 NPO の支援による、東埼玉テクノポリス協同組合（参加企業 34 社）の BCP 作成指導講座が 6 月 30 日よりスタートしました。この講座は、独立行政法人雇用能力開発機構の中小企業人材確保推進事業の助成事業の一環として実施されるものです。第 1 期講座の募集枠は 8 社でしたが、関心が高く 7 社の応募がありました。講座は、6 月から翌年の 3 月までの 10 ヶ月間に、4 回の集合講座、3 回の個別指導と添削指導によって実施されます。具体的には、第 1 部「BCP の基礎になる防災対策の実施」、第 2 部「重要業務を認識して簡略な BCP を策定する。第 3 部「本格的な事業継続計画 (BCP) に向けて」の 3 部構成で進めていきます。

工業団地が組合事業として BCP に取り組んだ事例はまだありません。この事業は、中小企業の BCP 普及のモデル事業として、今後注目されていくものと思います。

[ホームページ作成委員会発足]

現在、当 NPO のホームページは、会員の中根さんの経営している会社のホームページのサーバーを間借りして作成されています。当 NPO も本格的に事業活動をはじめ、いつまでも中根さんのご好意に甘えて対応できる状況ではなくなって来たのが現状です。そこで、今後の広範囲な活動にも耐えられる本格的なホームページを作成する目的で、ホームページ委員会（委員長：高橋事務局長）を立ち上げました。誰のために作るのか、何の為に作るのか、中身はどうする、更新の頻度は、原稿作成（写真、記事）は誰が書くのか、費用（初期費用は、運営費用は）はどうするのか、等々、着手早々何と検討すべきことが多いのかに驚いています。ホームページのコンセプトを決める今は一番重要な時期です。会員の皆様の忌憚のない意見やご要望を高橋事務局長までお寄せ下さい。

[お知らせ] 平成 20 年 8 月 11 日（月）に開催予定であった第 5 回シニア・アドバイザーミーティングは、中止いたします。8 月 2 日（土）の第 1 回オープンセミナーと行事月程が重なったためです。



20年度事業の大きな柱の一つである、BCP（事業継続計画）作成のための指導講座が、6月30日（月）午前10時から12時の2時間、旭地区センター研修室で開催されました。辻田講師の熱心な指導講座に、受講者は、当初1社3名限定として

きましたが、企業によっては4名受講の希望もあり、結局7社24名の受講者となりました。この日は皆さん終始熱心に受講され、早速講師から7月31日までの期日でドキュメント提出という宿題も課せられました。

辻田 講師

[初めてのオープンセミナー、盛会に開催される]

当 NPO 主催の第一回オープンセミナーが、中央大学学会の後援で 8 月 2 日（土）午後 2 時から中央大学駿河台記念会館 501 会議室で催され、コミュニティ・ビジネスの提唱者である細内信孝氏に「コミュニティ・ビジネスの可能性 リタイ後の地域デビュー」をテーマに講演していただきました。ことしは昭和 23 年生が定年をむかえ、団塊世代が続々と地域に戻ってきています。第二の人生を、いかに自分の納得のいく充実したものにするか、また一方、地域からはシニア世代の知識と経験を活かした地域再生・まちづくりへの期待が大きくなっています。細内講師は、これらを満たすため、地域活動や社会活動への参加、これまでの人脈・経験を活かしたコミュニティ・ビジネスの起業などを提唱しています。講師は、会社人間が地域に軟着陸するためには、まず気軽に地域デビューしなさいと説きます。その助けとして、「地域デビュー NG 集」と「お父さんのための地域デビュー心得」をわかりやすく教えてくださいました。「営利第一でもなく、無報酬のボランティアでもなく、その中間領域的な新しい働き方をして、自分の地域社会全体を元気にしよう。結果として自分起しにもなる」として、各地の女性たちが、ふとしたきっかけから始めたささやかな仕事を、地域に貢献するおおきな事業へと育てた事例を、いくつかご紹介くださいました。わずか 1 時間の講演でしたが、リタイ後も地域と共生し自己実現をはかる生き方から、参加者は示唆と励ましをたっぷりいただきました。講演後は、会場をレストランに移し、講師をかこんで懇親会をもち、ほとんどのみなさんがこちらにもご参加くださいました。中央大学土木同窓会串山宏太郎会長の乾杯のご発声で和気霽々の雰囲気の中、身近でタイムリーなテーマだけに、経験談や失敗談が飛びかい、おおいに盛りあがりました。土木同窓会舌間名誉会長（当 NPO 理事）の締めのご挨拶でお開きとなりました。



セミナー風景



懇親会風景

[橋梁保全研究会報告]

7 月 28 日辻田代表、平野座長、伊藤幹事、舌間、永松、鈴木、小田各会員が集まり開催しました。席上、鈴木会員より和久昭正氏（工学博士：高島テクノロジー(株)在職）の紹介があり、同氏より「アセットマネジメント」 - 土木構造物長寿命化対策 - の講義がありました。これは土木構造物の「ライフサイクルコストの最適化」を見出すもので、今後当研究会が和久氏に協力を依頼することに合わせて、この手法を如何に取り入れていくか研究課題となりました。その他「道路橋の予防保全のに向けた提言」（道路橋の予防保全に向けた有識者会議）等の資料が配布・説明され、最後に、当 NPO としての活動を推進するための手段として早急に「橋梁点検要領書」を作成し、それを自治体に提示・説明することから始めることで意見が一致しました。

【会員情報】 助川禎氏が 8 月に新規に正会員登録されました。

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年9月号



[バイオマス部会活動報告]

今年の1月末にバイオマス部会の3人のメンバー全てがアドバイザーの資格を保有いたしました。沖縄地域バイオマス発見活用協議会の講師として亀山さんがデビューしました、また小田さんは太田市バイオマスタウン事業化事業の策定や、企業への普及啓発のための講師も務められ大活躍といったところです。

現在バイオマスタウン構想を公表している市町村は平成20年7月末現在153市町村であり、平成22年度までに300市町村の目標に対して約50%の進捗であり、今後の取組推進をどのようにするかが課題であります。本NPOが全国市町村1,805個所のバイオマス賦存量やその他の要因を分析し、重点市町村等の選定を行い、JORA→農水省へ戦略提案したものが、今後の取組みの指針となったところで、今後その具体的な活動に入ることになりますが、実際の活動では現況のメンバーでは不足することも考えられます。今年度もバイオマスタウンアドバイザーの育成事業(第3回目)が行われ、本NPOから星野さんが応募しており、来年の1月末にアドバイザーに認証され大きな戦力となることを期待している状況です。

農水省では、「バイオマスタウン構想」を国内の留まらずの東アジアにおいても普及支援を考えており平成21年度予算にも支援事業が計上されております。近い将来日本のみならず、アジアにも目を向けた取り組みが必要となると思われ、会員皆様の支援・協力をお願いする時が来ると思っております。(宇佐記)

[東埼玉テクノポリスBCP作成指導講座報告]

辻田代表を講師として6月からスタートした東埼玉テクノポリス協同組合のBCP作成指導講座(7社参加)の第1部「BCPの基礎になる防災対策の実施」が、8月29日に終了しました。第1部の構成は、標題についての集中講義、各社の防災対策のドキュメント提出、ドキュメントの添削、各社個別指導となっています。個別指導は、質問の回答と課題のドキュメント評価など、一社当たり2時間のべ14時間おこなわれました。

各社とも、BCPにたいする関心は高く、大部分の企業は経営トップ自ら参加し、受講者も1社3人の枠を超えての人数になったほどです。中小企業向けにこのような形式のBCP学習講座が開催された例はあまりなく、とくに、講義だけでなく参加企業(=現場)と個別にフィードバックしながら指導をすすめるカリキュラムは、本講座が嚆矢ともいえます。BCPという概念が、中小企業の現場ではどう受け止められているのか、本講座から得られる生の声は、今後の中小企業向けのBCP普及に貴重なデータになるでしょう。

BCPに取り組むきっかけをトップに伺ったところ、事業にかける理念、経営にいただく志をみなさん熱く語ってくださり、そこにBCPへの期待を痛感しました。また、七社七色、各社がおかれた状況はすべて違います。参加7社が、同じ工業団地に立地し、BCPテーマも地震リスクに絞っているにもかかわらず、何一つ共通点はありませんでした。この事実から、受講者にはBCP概念の普遍性を学んでいただきながら、一方できめ細かい実態に即した指導がより必要であると、あらためて感じさせられました。なお、本講座は3部構成で、来年3月まで行われます。(高橋記)

【アナウンス】第6回推進委員会が別紙案内の通り平成20年10月27日(月)18時30分から国立オリンピック記念青少年総合センター内センター棟105で開催致します。正会員の方は出欠のご連絡をお願いいたします。

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年10月号

[第8回バイオマス視察研修報告]



10月8、9日にわたり(社)日本有機資源協会(JORA)主催による第8回国内視察研修が行われた。総数60名で、CSNでは宇佐副代表と亀山が参加した。視察先は、大田区城南島にあるバイオマス資源変換工場の2ヶ所を始めとして、千葉県内の5ヶ所の施設をバスで移動する工程であった。ここでは、その概要と感想を述べる。

なお、JORAの国内視察研修への参加は昨年に続き2回目の参加であったが、今年はバイオマス部会長である小田氏が参加できず2名の参加となった。11月には9回目の視察研修が四国のバイオマス取組施設を対象に予定されており、CSNの会員はJORA会員価格で参加できます。

1. 研修施設の概要

- ① 「バイオエナジー(株)城南島工場」 食品廃棄物をメタン発酵させ、発生したバイオガスを燃料として発電し、その電力をRPS法により東電に売電。
- ② 「(株)アルフォ」 食品廃棄物(生ごみ)を乾燥処理し、養鶏、養豚用の配合飼料の原料を製造し、特に乾燥処理の際の「油温減圧乾燥装置」は、てんぷらを揚げる原理を応用した先進的技術であり、短時間で飼料の製造ができるのが特色。
 - ①ともに東京都スーパーエコタウン事業の認定事業。
- ③ 「市原グリーン電力(株)」 木質バイオマスとRPFを燃焼し、蒸気タービンによる発電の電力をRPS法により東電に売電。また、資源の供給会社を別につくり、供給責任を明確にしている。
- ④ 「社会福祉法人光明会」 障害者支援施設就職するなら明朗塾とうたい知的障害者が地域との連携にて廃食用油のバイオ燃料化の事業を実現した。自立型ビジネスモデルとして注目されている。
- ⑤ 「(株)ブライトピック千葉」 旭市溝原工場では養豚用飼料として食品残さから液体飼料(リキッドフィーディング)を製造。原料回収、製造そして養豚場への運搬まで一貫した事業を展開。
- ⑥ 「山田バイオマスプラント」(独)農村工学研究所が中心となり、香取市山田地域にてアグリバイオマス資源の多段階利用の実証研究。その一環として周辺地域との連携やタイ国と技術連携。
- ⑦ 「農事組合法人郷園」 農工研との連携により生産者の自立、健康・環境・調和を活動理念として1,500haにわたる自然循環型農業、食育の推進など多面的な農産物の生産を行っている。

2. 研修の感想

- ① 明朗塾では、知的障害者を就労に導く経営者の日常の視線は、彼等の目線にあわせ、実践している。実利を目的とする通常の経営感覚と違う高邁な精神に忍耐と努力がないとできず、大変感銘したところである。
- ② 液体飼料(リキッドフィーディング)の製造途中のものを試飲した。決して進んで飲めるものではないが、人間が食べないものは、豚にもたべさせられない。そうでないと良い豚は出来ないとの飼育者の言である。昨今、食の安全・安心の欠ける生産者に一顧を促したい。
- ③ 原理現象は普段頭でイメージ出来ても、なかなか理解できないことが多い。特にIT導入の設備・機器はなおさらである。百聞は一見にしかず、この目で確かさをもつことは古今東西、大切である。今後も時間と金そして健康であれば、このような機会を求めたいと思う。(亀山記)



シビルサポートネットワーク活動報告 2008年11月号

[ホームページリニューアル完成報告]

CSNのホームページがついに完成、運用開始しました。

いままで、会員中根健一氏のホームページに間借りしていましたが、独自のドメインをとり、内容も一新してスタートです。“CSNを多くの人に知っていただく”ことを、基本コンセプトとして作成しました。読んでみると、重厚で中味の濃い印象を受けます。全編に目を通すには、かなりの時間がかかります。薄っぺらなホームページにならずにすんだのは、会員各位が地道に積上げた活動実績があればこそと、あらためて感謝申し上げます。

「都市・環境 シニア技術者」と入力して検索してみると、画面にまず、当法人が出てきます。JICAの「シニアアドバイザー募集」や「日本のシニアと環境問題」などをおさえて、堂々！第1行目ですから、滑り出しにしては健闘していると、うれしく思っています。

百聞は一見に如かず、会員だけでなく、どうぞ友人知人にも見るようにお勧めください。

ホームページが媒体となって、CSNがさらに社会に認知され、新しいメンバーがふえ、活動の舞台と事業がひろがっていくでしょう。ホームページへの期待がふくらみます。これは、会員によって作られていきます。英知を結集してよりよい作品となるよう、引き続きご協力、ご支援をお願いします。(高橋記)

シビルサポートネットワーク (CSN) <http://www.npocsn.org/>

[推進委員会開催報告]

CSNの第6回推進委員会が、10月29日(月)午後6時30分からオリンピック青少年センター会議室で開催されました。当委員会は、期の間時点て前期の振り返りと後半期にむけての展望などを、会員が忌憚なく意見を述べあうことを目的としています。辻田代表、宇佐副代表をはじめ、亀山・真田・荻野・小川・出崎・坂本・助川・高橋の各会員が出席しました。

はじめに辻田代表の挨拶、新入会員の助川禎氏が紹介され、つづいてリニューアルされたホームページの紹介を兼ねて、その映像を見ながら、代表より事業全般(中小企業を対象にした事業継続計画(BCP)研修事業、バイオマスタウン推進事業、道路橋長寿命化促進事業、地域とのパートナーシップ構築事業等)の現況が説明されました。内容については都度、活動報告でお知らせしていますが、BCP研修やバイオマスは受託実績があがり、CSNの事業の柱として順調に育っています。

坂本会員からは、今後取り組んでみたい事業分野の参考としてビジネスモデル3例が紹介され、また道州制移行にともなってビジネスチャンスがあることも報告されました。(高橋記)

[第5回CSNサロンのご案内]

第5回サロンを12月1日(月)午後3時から5時に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催します。講演テーマは「コーポラティブハウスとまちづくり」と題してNPO法人都市住宅とまちづくりの杉山代表理事に講師をお願いします。大変に興味深いお話がお聞きできると期待しております。

なお、サロンはどなたでも参加できますのでお誘いあわせの上ご参加下さい。また、終了後は同センター内のレストランで忘年会を開催いたしますのでサロンにご出席できない方も是非とも今年最後の忘年会にはお顔をお見せ下さい。お申し込みはCSNのホームページ上から出来ます。

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年12月号

【“吉川新都心構想”の提案を第3回よしかわNPOフォーラムにて発表】

吉川市は、市内で活動する NPO 団体と共催で、平成 19 年より NPO フォーラムを開催しています。CSN は、第 1 回 NPO フォーラムで、パネルディスカッション「安全・安心・元気な地域社会をめざして」を、ことし 2 月の第 2 回では「中小企業向けの事業継続計画 (BCP) セミナー」を開催しました。両企画ともプレスに取り上げられ高い評価を得るとともに、その後の CSN の事業にも結びついたものとなりました。

そして、きたる第 3 回 NPO フォーラム (平成 21 年 2 月 7 日 (土)、10 時～16 時、吉川市市民交流センターおあしすで開催) では、パネルとプレゼンテーションで「吉川市新都心構想」の提案をすべく、横川義昭氏を中心に準備を進めております。吉川市は現在、両隣りの越谷市と三郷市の市界に大規模商業施設が相次いでオープンすることとなり、今後のまちづくりに様々な問題が発生することが予測されます。このため、吉川市の今後のまちづくりは、隣接する巨大商業施設に対していかに吉川市としての特徴を打ち出すか、にかかっていると云えます。そこで、CSN としては、これらと共存した魅力あるまちとすべく本構想を提案するものです。当日のフォーラムへの会員の多数の参加をお待ちしております。

【第 5 回 CSN サロン: 講演「コーポラティブハウスとまちづくり」報告】

今回は、NPO 法人都市住宅とまちづくり研究会 (以下、「としまち研」) 代表理事 杉山 昇氏を講師にむかえ、平成 20 年 12 月 1 日 (月) 15 時から 17 時まで、国立オリンピック青少年総合センター会議室で 13 名が参加して開催されました。

杉山氏は、(株)間組で開発事業等に携ったあと、2000 年に「としまち研」理事長に就任され、現在東京神田を中心に、地権者の共同建替えをコーポラティブ方式との組み合わせによる事業などを手がけています。

同氏は、仕事を通じて縁のできた神田で、再開発によって古くからの住人が立ち退きを余儀なくされ、都心部でありながら人口が減り、町内会活動もままならない現実をみて、過疎化した都心に住む人を呼び戻す方策を考え実践する組織として、本 NPO を立ち上げたそうです。コーポラティブハウスは、一般的には「実費で住宅建設できる」、「自由設計ができる」などが特徴とされています。一方、「としまち研」スタイルは、地権者参加型のコーポラティブ方式として、地権者が土地を、入居希望者が建設資金を出資して組合をつくり、「・地権者が住み続け、商売を続けられる、・住戸内などの自由設計ができる、・高齢化・過疎化の進む都心に子育て世帯を含む多様な住民が増える」などの特色があります。「みんなでいっしょにつくるので、気心も知れ安心して入居できる」、「新住民も、地権者を橋渡し役として、町会などの地域社会にソフトランディングできる」という効果もあるとのこと。

現在までに、都心で 11 プロジェクトを実現させ、ことし 10 月には、これら密集市街地における共同化事業への取り組みが評価され、国土交通大臣賞が授与されています。

杉山代表の地域社会再生にむけての熱意と誠意が、この講演を通じてひしひしと伝わり、わが CSN も先輩に学ぶべきものが多いと思いました。〔高橋記〕



杉山講師 [写真中央]

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年12月号

[近況報告 小田 義明]

“生涯現役”という言葉がある。私が記憶している中で印象深かったのは、野村監督が南海ホークスでプレーイングマネージャーに就つた時、言った言葉である。私にとってこの言葉は一つのスポーツや仕事に精通した者が、さらにその道を極めるといったイメージがある。

さて、私が今年8月にCSNの永松先輩よりご紹介をいただき、10月1日よりスバル興業(株)に勤務したときはちょうど69歳になったばかりであった。自分では年齢のことはあまり気にしていませんでしたが、それから私に対して、生涯現役という言葉をかける諸先輩が何人かおられた。もうそんな年になったのかと思いながら、この言葉を聞くと私自身は面映ゆい気がした。自分はただ漫然と時間を過し、怠惰な毎日を送っていて生涯現役といったイメージとはかけ離れていたからである。そんな自分への叱咤激励のために新しい職場を与えられたような気がする。

勤務地は関西で私にとってこちらは十数年ぶりの勤務であったが、今では阪神淡路地震の傷跡はほとんど見られず街の様子は大きく変貌していた。特に瀬戸内海に面した海岸線にはマンション群や住宅街が広がっており、高速湾岸道路と相まって独特の風景を醸し出している。

私が越したマンションのある芦屋市は自然に恵まれ、南の瀬戸内海にも、北の六甲山の麓にも徒歩40分くらいで着き散歩するには最適である。大阪や三宮に行くにもJRで10分ほどしかかからず交通の便利などところでもある。街はきれいに清掃されていて、大きな屋敷が多く見られ、市としての一人当たりの市民税が全国一であることが納得できる。また、この辺は灘の生一本で有名な酒蔵があちこちに見られ酒造の本場でもある。

勤務は、大阪(天満)に週1日、西宮に週2~3日出勤している。仕事は橋梁の維持補修工事について、若手社員への助言・指導である。

公共事業が社会から批判を受けるなか、それでも我国の膨大な社会資産を維持していかなければならないことはこれからの国民の使命と考える。私はこれについて若手社員と一緒に考え、勉強し“生涯現役”のイメージに少しでも近づけるようここで第一歩を踏み出したいと考えています。

[現地タイレポート——空港占拠に遭遇 出崎 太郎]

11月末バンコクで開催されたCAFE0-26参加のためにタイへ行ってきました。その際、タイの国際空港占拠に巻き込まれ、予定の4日遅れで帰国しました。その顛末の一端を報告いたします。

CAFE0(Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations)は、非政府系組織による東南アジア技術者の交流大会で、構成10カ国が毎年持ち回りで開催します。日本は、オーストラリア、カナダ、香港、韓国などとともにおブザーバーとして参加しています。私は日本技術士会の一員として21回大会から連続して参加しており、今年は日本から5人が参加を予定していました。参加者は、現地集合、現地解散です。

CAFE0-26はバンコクで11月26日から29日までの開催で、私は前後の休日を利用して23日(日)に出国し30日(日)に帰国する予定でした。大会前日の25日17:30ころ、チェンマイから前の国際空港ドムアンに到着し、タクシーに乗り換えて会場のホテルに入ることができました。後で聞いたところによりますと、24日に首相府を占拠していたデモ隊が25日に臨時首相府のあるドムアンに向かい、さらにスワンナプーム国際空港へ移動した、とのことですので、自分の知らないところで緊張があったのではないかと思います。

シビルサポートネットワーク活動報告 2008年12月号

ホテルでは、参加を予定していた若いメンバー2人がチェックインしておらず、後で空港閉鎖のため香港から引き返した、と聞きました。大会期間中も空港再開のメドが立たないということで、日を追うにつれて各国派遣団に動揺が走ります。陸続きの国ではバスをチャーターしたり、代替空港として使用された海軍のウタパオ基地からの便を最も早く利用したといわれる韓国からの参加者は、1日前に会場から消えました。

私も30日の帰国便があてにできなくなりましたので、29日の視察旅行に参加せず、自分の航空券のタイ航空本社に出向きました。タイ航空の説明では、22:35にウタパオ空港から成田行きが出るが、本社では状況が把握できていないので現地へ向かうように勧められ、急ぎホテルへ戻って宿泊をキャンセルし、タイ航空スタッフとともに本社からのバスに乗りこみました。出発したのはお昼近くになっていました。ウタパオ空港には3時間ほどかかって到着しました。空港で待機し、スタッフから指示された20:00頃に、指定されたカウンターデスク前に行きましたが、デスクは設置されず、出発便の案内もありません。タイ航空の現地スタッフをつかまえて状況を問い質したところ、発券、搭乗手続きは全てバンコクで行っているので現地ではどうすることもできない、とのことでした。

たまたま近くに居合わせた、日本大使館スタッフと相談した結果、発券したHIS（日本の旅行業者）を通じて動いた方が良さだろうということになり、バンコクへ戻ることにしました。宿泊ホテルは、大使館スタッフがHISの近くに予約し、タクシーは近くにいたバンコクへ戻るドライバーと交渉してくれました。深夜0:00ころ現地を出発し、約150kmを2時間半かけてバンコクのホテルに戻りました。いずれも自費です。

翌日からは、早い帰国便を確保するための戦いでした。HIS、タイ航空事務所での航空券予約とキャンセル待ちのくり返し。12月5日夜発の航空券を確保して、キャンセル待ちの確認を重ね、3日夜発の便に乗ることができました。この便は、ウタパオ空港発の予定が、再開されたスワンナプーム国際空港の第1便に変更になったもので、空港の建物は通らず、バスから待機場の航空機に直接乗り込みました。その時も、成田に着いた時も空港再開第1便ということで多数の報道陣に取り囲われました。

この間には、日本人旅行者に対するタイ女性ボランティア2人の献身的な支援がありました。タイのこの騒動が真に民主化のための運動なのか、単に反現政権の権力者による権力闘争なのか、経済的影響が大きいだけにタイにとって良い方向に向かうよう望んでおります。



臨時に設けられたチェックインカウンター



報道陣に囲まれて空港再開第1便に搭乗する乗客

【新春メッセージ(代表理事 辻田 満)】

明けましておめでとうございます。今年も一年皆様のご健康とご多幸を心から祈念しております。さて、CSNは平成16年8月に設立総会を開催して以来、早いもので5年目の活動に入っております。現在メンバーは、設立メンバーに新しいメンバーも加わり現在、総勢32名（特別会員2名、正会員27名、シニアアドバイザー3名）です。会員が一同に会する年間行事は、ほぼ定期的に2ヶ月に1度のペースで開催されています。柱となる事業も、中小企業へのBCPの普及事業、バイオマスタウン普及事業ともに多くの実績も出来、今後ますます活発に事業展開が期待されます。今、世界的にソーシャルビジネスが芽生えています。ソーシャルビジネスとは①社会性（社会的課題の解決に取り組むことをミッションとする）②事業性（ビジネスの形で継続的に活動する）③革新性（新しい商品やサービス提供の仕組みで社会的価値を創造する）と定義されています。ソーシャルビジネスの最も多い事業形態はNPO法人で、何と潜在的市場規模は国内で2.2兆円と試算されています。英国ではすでに雇用規模は77万人、市場規模は5.7兆円となっており、わが国でも新しいビジネスモデルとして現役をリタイアした人材を中心として今後ますます注目されてくるとなるとおもいます。CSNも、設立当初からこのソーシャルビジネスを目指して取り組んできましたが、あらためてこの選択は正しいものであったと確信しております。引き続き、より一層の会員各位の豊富なスキルと経験を存分に生かせる場の提供を行って参ります。今年も一年何卒よろしくお願い申し上げます。

【多くの方々からホームページを見てメッセージを頂きました】

- ホームページを拝見しました。充実してきましたね。ゼネコン業界も再編の嵐が吹いていますが、コンサル業界もけっこう厳しいものがあります。なんとか新しい道がないものかと、無い頭をひねって悪戦苦闘しております。 Wさん
- PHを拝見いたしました。すっきりしたHPですね。CSN代表挨拶(辻田さんの)も拝見いたしました。大変よく分かるHPだと思います。SKさん
- ホームページ見やすくてとても素敵です。Fさん
- 素晴らしいホームページですね。精力的に活躍しているイメージが湧いてきます。Mさん
- なかなか良いコンテンツですね。Tさん
- ホームページを拝見いたしました。精力的に、ご活躍されているようで何よりです。YSさん
- 立派なホームページ、拝見させていただきました。いろいろとやられていますね。Mさん
- ホームページ拝見しました。貴殿におかれては、その代表として、地域においてあるいはリーダーとしておおいに活躍している様子が分かりました。NPOの運営は、会員諸氏のボランティア精神と地域住民の理解がなくては進みません。大変でしょうが、安全、安心で明るい地域づくりのため、益々のご活躍を祈っております。 NAさん

シビルサポートネットワークニュース 2009年 1月号

- リニューアル・ホームページを拝見させていただきました。NPO法人のご活躍振りがよく分かりました。更なるホームページの“Up Date”を楽しみにしております。UKさん
- リニューアル情報 --- ありがとうございます。 さっそく アクセスしてみました。 多方面でのご活躍 … 大慶に存じます。KHさん
- ホームページを拝見いたしました。非常にわかりやすく、うまくまとめられており驚いている次第です。さて、日経コンストラクションなどでは「ケンプラッツ」というウェブサイトを運営しており、その中で、NPOに焦点を当てた簡単な連載記事を始められないかと考えております。単なるボランティアではなく、事業として活動しているNPOの取り組みや働いている人たちの思いなどをご紹介してみたいと企画しているところです。連載の名称は「職業としてのNPO（仮）」といった感じですが。企画が固まってきましたら改めてご相談するかもしれませんが、その際はよろしくお願いたします。 TNさん
- HPを拝見致しました。いろいろな切り口で活動を展開されている様子が良く分かりました。事業を通じて社会に貢献しようとするハートが感じられる会社ですね。そのような会社で活躍されている先輩が大変うらやましく感じます。 KBさん
- NPOのホームページ見ました。とても素敵なホームページですね。またとても読みやすく記載内容もすぐに把握できました。 MSさん
- シビルサポートネットワークのホームページを見させていただきました。活躍の状況が良く伝わってまいりました。頼もしい限りです。YKさん
- 新しいホームページ拝見しました。ますますのご発展のご様子大慶に存じます。耐震・低炭素化社会いずれをとってもこれからの重要施策として位置づけられている事柄なので、今後とも社会的要請が強くなるのではないのでしょうか。 AFさん
- 素晴らしいホームページを拝見いたしました。活動もますます充実ですね。私も会社生活の残りあとわずか、辻田さんのような地域に根を張ったコミュニティビジネスのようなものを目指しています。THさん
- その内容に吃驚です。と言いながら、私も内容はほとんどわかりませんでした。拝見していくうちに「私の一冊」に投稿してくださった亀山さんや小田さんにホームページ上で突然お会いできて、思わずお礼を言ってしまいました。難しいことをしていらっしゃるのに本当に優しそうな皆さんですね。これからもますます活躍され、吉川との繋がりがより深いものになることをお祈りしています。 Oさん

シビルサポートネットワーク活動報告 2009年2月号

【NPOフォーラムで“吉川新都心構想”を発表】

第3回吉川NPOフォーラムが、2月7日市民交流センターで14団体が参加して開催されました。このフォーラムは、辻田代表が実行委員をつとめ、CSNも初回から参加していますが、今回は、標記のような大作をもって臨みました。

吉川市周辺は開発が急ピッチですすみ、西隣りの越谷には「イオンレイクタウン」、東隣りの三郷は「ららぽーと」と、のべ5000万人以上の集客をめざす巨大商業施設が来年までに完成し、また市内には武蔵野線の新駅も開設準備中です。ところが、このような百年に一度も無いような激変期に、市当局に吉川をどうしようというグランドデザインがありません。

「このままでは、吉川市が危ない！」と、CSNでは、会員の横川氏のアイデアをもとに、「吉川新都心構想」を企画し提唱したものです。

当日は、市長をはじめ多くの方が来場しました。CSNのブースでは、辻田以下、横川・小川出崎・高橋の各会員が説明にあたり、「こんな方法もあるんだ」「なにかやらないといけない」「行政でないから、こんな発想ができるのだ」「さらに活動をつづけて、ぜひ現実のものにしてほしい」などのご意見をたまわりました。吉川市に今春入所するという青年が、熱心に話を聞いていったのが、とても印象的でした。この提唱が、市の未来構想づくりの起爆剤となることを切に祈ります。



構想を発表する辻田代表



構想に興味津々



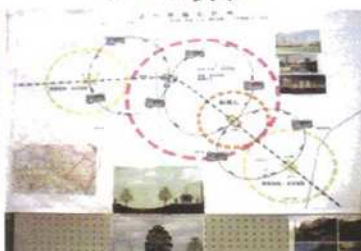
ブース表示



ブース全景



“吉川が危ない！”



構想図



鋭い質問も



説明にあたったCSNの面々

横川 小川 高橋

出崎 辻田

【第6回シニアアドバイザーミーティング報告】

2月13日(金) 15時より、オリンピック記念青少年センター会議室で、9名が参加して開催されました。特別ゲストは、人事採用担当者の経験から、大学での就職アドバイザー、



信岡茂氏

企業採用アドバイスをはじめとしたさまざまな就職・採用支援活動を展開している、ジョブアナリストの信岡 茂氏です。「中小企業の採用戦略」をテーマに、目立たない学生に、目を向け、発掘し、エネルギーを注ぎ、自社向きの価値観に教育するために、面接ではなく、面談スタイルの選考を貫いて負けない採用をめざそう、とのお話でした。

今回初めて、技術系以外の異分野のゲストを迎え、そのスピーチは新鮮でとても興味深く、人材発掘の新たな観点を学ぶことができました。

つづいて、須山会員から、建設NPOの現況について報告がありました。

シビルサポートネットワーク活動報告 2009年3月号

【東埼玉テクノポリス協同組合 BCP 作成指導講座終了報告】

昨年の6月から今年の3月に掛けて10ヶ月に渡って開催されました東埼玉テクノポリス協同組合の事業継続計画（BCP）作成指導講座が終了しました。主催者は東埼玉テクノポリス協同組合で、CSNは主催者の依頼でその指導に当りました。参加企業は業種、規模とも様々な中小企業7社で参加メンバーは経営者・幹部クラス（1社から3名～5名参加）でした。進め方は4回の集合教育と3回の企業別指導を10ヶ月間で延べ25回実施しました。実施内容はBCAOが作成した中小企業ステップアップガイド（SUG）を使ったOJT方式で本講座を通じて実際に第1部～第3部のBCPドキュメントを各企業で作成しました。今回の講座は各社とも経営者や幹部がメンバーとして参加しており非常に高いモチベーションで取り組まれ素晴らしいBCPが出来上がりました。3月13日にはこの講座を通じて策定した各社のBCPの発表会を行いました。発表会にはオブザーバーとして協同組合の理事長をはじめ多くの理事の皆さんや（財）埼玉県中小企業振興公社からもBCP担当者の方が参加されました。また、今回の工業団地における組合事業としてのBCPの取り組みが注目されプレスからも取材要請が入っています。引き続き次年度も是非とも本事業は継続したい旨を協同組合の理事会でも話し合われているとのこと。下記の写真は発表会風景です。



【平成21年度総会案内】

別紙、正会員の皆様にはご案内の通り平成21年4月24日平成21年度第6期総会を開催いたします。また、シニアアドバイザーから正会員への登録をご希望の方は新年度から登録をして頂き、総会からご出席下さい。また、お手数ですがご欠席の方は委任状のご提出をお願いします。当日、平成21年度会費（1万円）を当日お持ち下さい。なお、正会員で総会ご欠席の方は（三菱東京UFJ銀行 越谷駅前支店 普通NO.1391086シビルサポートネットワーク）年会費の振込みをお願いいたします。

【土木学会シンポジウムで辻田代表が発表します】

平成21年5月14日（木）13時～17時 土木学会主催シンポジウム「NPO活動その多様な活動ーシビルエンジニアに期待されることー」で話題提供者およびパネルディスカッションのパネラーとして辻田代表が発表します。多数の皆様方の参加をお願いします。詳しくは当NPOのホームページをご覧ください。